

## 07 ブラインドサッカーで風を感じて (障がい者)

みな 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、田島芽瑠がお届けします。

みな 皆さんは、視覚障がい者のスポーツ「ブラインドサッカー」をご存知ですか？ 福岡市には、「ラツキーストライカーズ福岡」というチームがあります。今日は、視覚障がいのある方にとってスポーツのある生活がどんな可能性を広げてくれるのか、考えてみたいと思います。

15 ブラインドサッカーは、視力の程度で差が出ないように、ゴールキーパー以外はアイマスクをつけます。ボールは転がると「シャカシャカ」と鳴るので、その音で位置をつかみます。ボールを奪いに行くときは、ぶつかる危険を避けるため、「ボー」と声を出さなくてははいけません。ゴール裏には目の見える人が立ち、シュートの際には、声出しやゴールポストを叩いて距離や方向を教えます。見える人の手助けは最小限に抑えて、声や音を頼りにプレーする競技です。

20 このチームには、女子日本代表の橋口史織さんがいます。橋口さんは25歳のときに病気が原因で目が見えなくなりました。

25

目が見えなくなると誰でも、街歩きは不安です。車のクラクションにビクツとしたり、段差に足を取られそうになったりして、外出が億劫になるものです。

橋口さんにとって、そんなストレスを吹き払ってくれたのがサッカーでした。橋口さんは言います。

30

「ブレインドサッカーはルールを守れば、フィールドを縦横に走ることができる。体に風を感じます。ゴールが決まると、わーッと駆け寄ってみんなで盛り上がる。それがすごく楽しいんです」

35

橋口さんは、ボールを蹴り、操る技術をレベルアップさせることが喜びと自信になりました。代表選手になってからは、合宿や海外遠征などのイベントが増え、見えていたときよりも行動や交流の範囲が広がったそうです。

40

令和3年に出産した橋口さんは、7月には代表合宿に復帰。チームからの託児サポートなどを受けながら、代表としての活動も続けています。

45

障がい者スポーツを通して、いろんなことができるようになり、社会参加につながっていく。そんな可能性を、橋口さんとブレインドサッカーの出合いは教えてくれます。